米教育サイト、日本に

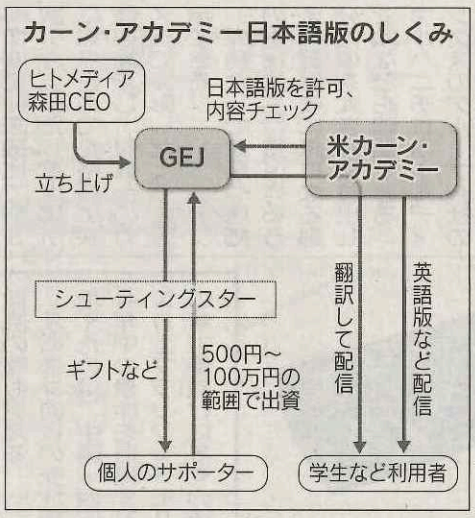
動画配信「カーン・アカデミー」

無料で3月にも ■ まず高校生に数学

翻訳費用 出資募る

米国を中心に短い授業の動画配信で人気を集めている米教育サイト「カーン・アカデミー」に公式の日本語版が登場し、3月にも無償配信が始まる見通しとなった。翻訳費用はインターネットを介して不特定多数の人から小口の出資を集める「クラウドファンディング」を利用する。IT（情報技術）を使った教育手法の社会的な認知や議論のきっかけづくりも狙う。

▼カーン・アカデミー　2006年にサルマン・カーン氏が設立した教育コンテンツを制作・配信するNPO。同名のサイトで、小学校から大学レベルまでの数学や理科、歴史などの授業を1回約10分のビデオにまとめて無料配信している。ビデオは5千種類以上あり、米国では公立の小中学校でも活用が進んでいる。米グーグルや米マイクロソフトの共同創業者ビル・ゲイツ氏の財団などが財政面で支援している。



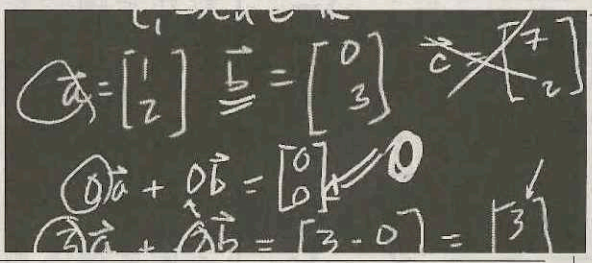
日本語版の制作、配信は、海外の教育コンテンツ（情報の内容）を日本に紹介する目的で活動を始めたプロジェクトチーム「グローバル・エデュケーション・フォー・ジャパン（GEJ）」が担う。GEJは教育関連のコンサルティング会社、ヒトメディア（東京・港）の森田正康最高経営責任者（CEO）がこのほど立ち上げ、森田氏が代表を務めている。

GEJはカーン・アカデミーの公式パートナーとなり、配信内容を日本語に翻訳する権利を獲得。5千以上ある同サイトの動画のうち、日本の学習内容に適した数学の「比例」「割合」「証明」の計64単元を第1弾として選び、日本語に翻訳して早ければ3月にも配信する。高校生が習熟度に合わせて、中学の内容をやり直すのに適しているとしている。

カーン・アカデミーの全コンテンツを翻訳すると1億円以上かかるが、GEJは日本に適したコンテンツを選んで翻訳する方針。第1弾の64単元を吹き替える（一部は字幕も作成する）費用として見込む1270万円は、社会に広く訴えてクラウドファンディングで調達する。出資者にはGEJのロゴ入りのギフトの進呈や、GEJのサイトに支援者として氏名を掲載するなど、金銭ではない形で報いる。

GEJは22日、JGマーケティング（東京・千代田）が運営するクラウドファンディングサイト「シューティングスター」で少額出資の募集を開始。必要金額を何回かに分ける「ブロックファンディング」で募集。初回（目標180万円）の募集期間は3月8日までだが、27日時点ですでに150万円を上回る応募があり、「目標達成が見えてきたので、翻訳作業を始めた」（森田GEJ代表）としている。米カーン・アカデミーのチェックを経て、早ければ3月中にも日本語版の配信を始める。

GEJは引き続き9月中旬まで断続的に資金を集め、翻訳費用に充てて海外の教育コンテンツを紹介する。また教育現場でのコンテンツの活用などについて議論を喚起したい考えだ。



カーン氏は、ネットを通じて遠隔地で暮らすいとこに数学を教えていたことをきっかけにサイトを設立

「生徒の選択肢 広げたい」

仕掛け人・森田氏 収益は求めず

カーン・アカデミー日本語版の配信に乗り出す狙いについて、仕掛け人であるグローバル・エデュケーション・フォー・ジャパン（GEJ）の森田正康代表に話を聞いた。

――日本語版を始めるきっかけは。

「昨年春にシリコンバレーの学校などを視察し、IT（情報技術）を使った反転学習（教育コンテンツを使って生徒が予習し、授業は一方的な講義から個別の補習などに力点を置く教育手法）について改めて考えた。反転学習を巡って国内では賛否両論あるが、まず米国で広く使われているカーン・アカデミーを日本でも日本語で体験し、議論すればいいと考えた。生徒たちの選択肢を広げたい」

GEJ代表
森田氏

――すべてのコンテンツを翻訳するのですか。

「すべてが日本に適したものとは限らない。まずは日本に合ったものを優先する。ただ、歴史など諸外国のコンテンツを紹介することで、多様な考え方に触れる機会も得られる。米カーン・アカデミーからは原則として吹き替えを求められているが、一部、字幕も検討している。字幕付きのコンテンツは英語の勉強にもなる。学校で教材として使ってもらえるようになりたい」

――翻訳費用の調達にクラウドファンディングを選んだ理由を教えてほしい。

「カーン・アカデミーは無料配信。特定の企業に頼り、色がつくよりも、資金の募集を通じて、多くの人に教育のあり方について考え、個人として参画してほしいからだ。特に学校の先生にきちんと受け止めてもらえるようにしたい。GEJの目的はカーン・アカデミーを日本で普及させたり、収益を上げたりすることではない」

（聞き手は岡田信行）